

エッセイコンテスト2等賞

「フランス語とわたし」

二瓶泰枝

今回、本エッセイを書くにあたり、齋藤晴比古先生の『ドクトール白ひげ対フランス交流記』を読ませていただきました。まず医師という重責を担うお仕事の傍ら、趣味の範囲を超えたレベルでフランス語を習得され、それを日仏交流に捧げていらっしゃることに、深い感銘を受けました。二足の草鞋と簡単に片付けられない情熱を本書から感じ取ることができました。

また、アテネ・フランセで学習するきっかけとなったエピソードに、アテネ・フランセの地下の談話室で学生たちの様子が描かれていました。「広いスペースにもかかわらずムンムンとした熱気に満ち溢れていた」談話室は今でも同じように、熱気にあふれ、「フランス語と日本語が飛び交う独特の雰囲気にも圧倒されたが、皆の顔つきが生き生きと輝いており」と描かれている学生たちの様子は、今も変わらず息づいていると思いました。わたしも最初に談話室に足を向けた時に同じ印象を受けていたので、この一節を読んだ時に本当にその通りだなと思いました。そして、アテネ・フランセで勉強する人々は老若男女、様々な人々がいらっしゃいます。わたしの母親以上の年齢と思われる白髪のマダムが生徒として、美しい筆記体で答えを板書される姿をみると、アテネ・フランセの底力を感じさせられます。

本著書を読んで、自分はどのようにフランス語を学んでいるのか再び問い直す素晴らしいきっかけを与えていただいたように思いました。何となく、やめられずに、漫然と続けていたフランス語ですが、なぜ自分がフランスを学ぼうと足を向けたのか、最初に感じたインスピレーションを忘れることなく、情熱を持ってフランス語を学んで行きたいと思いました。

そして、学んだフランス語をどのように役立てていけばいいのか。わたし自身は、フランス文学が好きなので原書で読めるようになれるのが夢ですが、それを自分自身の喜びだけでなく、他の人とも共有することができていければ、その夢は何倍にも広がってゆくのではないかと考えています。この著作に、互いを思いやる心について書かれていました。それは、鳴門教育大学附属小学校の白石譲二先生に書かれているメッセージにも同様に汲みとれる事が出来ると思います。

《Message de Monsieur le Maître Kenji Shiraishi》 Les petits échanges cordiaux des enfants de France et du Japon tourneront bientôt en grand courant d'esprit, et créeront une nouvelle époque de paix— Je prie pour cela de tout mon cœur. J'applaudis ces enfants merveilleux.

そのまま引用させて頂きましたが、相手を思いやる心を持つ事で、新しい平和な時代を創り出すことが可能になり、そしてその精神は次の世代へ繋げてゆくべきものなのだと、本著作を通じて学ばせて頂いたと思っています。相手を思いやる心とは、一見とても簡単なことのように思いますが、実は意外に今の世の中で忘れ去られていることの一つではないのでしょうか。相手を思いやる心は、国を越え、人種を越えて累々と受け継がれてゆくことで、平和な世の中は実現できるのではないかということ、それは意外に各人の小さな一歩で、それは成し遂げられるのではないかという事について、本著作を通じて考える事ができました。